

漁場環境調査（水産部委託）

1. 人工魚礁環境調査

1) 名護湾内人工魚礁

1. 前書

1967年より、沿岸漁業構造改善事業が、水産部生産課を主体に、推進されているが、水産研究所としては、漁場環境調査を担当している。まず、既設漁場の、利用状況をみるため、名護人工魚礁について向こう2年間の予定で、調査継続中である。調査開始は、今年の3月で、まだ、4ヶ月しか経過しておらず、報告できる段階に至っていないが、現在まで実施した調査によって判明した結果についてのみ報告し、最終的な調査結果については、調査日程終了後、資料の整理が完了してから、報告したい。調査人客、総括、上地清吉、調査員、友利昭え助（まとめ）新里喜信、金城武光

2. 調査の目的

名護湾内において、1962年以来、継続設置されてきた、築礁施設について、その環境条件、集魚効果、併せて、名護湾全域からみた人工魚礁の利用度を調べ、最終的には、より有効な沈設場所の選定基準をみいだす目的である。

3. 調査内容

1) 魚礁周辺における、流動環境の季節的変化、環境（水温、塩量、透明度、付着物）、並に、間取り、標本漁家調査による生産効果判定。

2) 調査事項

海底地形、潮流、底生生物、水質調査、構成資材、魚礁面積、漁獲統計、メアジ（ガツン）の魚体調査

4. 調査の方法

定期観測一月に1回、現地において、散在している各魚礁について、気象、海象、プランクトン、採集、潜水観察を行った。また魚礁の利用状況の聞き取り調査も併せて行った。

5. 調査の概要

1967年3月：定期観測、水中撮影、魚探による魚礁構造、湾内地形の調査。5月：定期観測魚礁周辺の底質調査、安和沖底質調査。6月：定期観測、水中撮影、湾内定点観測、湾内に散在している魚礁に、便宜上、A、B、C、Dの記号をつけた。1962年以降において設置された魚礁の位置、構成資材については、表1、図1の通り。